

教科(科目)	保健体育（保健）	単位数	1単位	学年	1学年
使用教科書	大修館書店『新高等保健体育』				
副教材等	大修館書店『図説新高等保健』				

1 グラデュエーション・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	①広い知識と科学的思考に裏付けられ、事に臨んで適切な判断ができる人間に育てる。 ②強靱な体力と不屈の忍耐力を持ち、信念を持って行動するたくましい人間に育てる。 ③相手の立場に立って物事を考え、人の心を汲み取って思いやる温かい人間に育てる。
カリキュラム・ポリシー	①1・2学年では全員が共通の科目を学び、広く基礎的な知識・技能を身につけます。 ②3学年では選択科目を多く設置し、個々の興味・関心を進路目標に合わせ科目を選択し学びます。 ③授業第一主義とし、主体的・対話的で深い学びの授業、ICTを積極的に活用しわかりやすい授業を実践します。 ④長岡市との「探究学習の推進に関する連携協定」のもと、地域の大学、企業、行政と連携し、地域資源を活用した生徒主体の探究活動を実践します。 ⑤学校行事や部活動では、安全安心な環境を整備し、生徒の主体的な活動を支援します。

2 学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。 (1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。 (2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。 (3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
--

3 指導の重点

①知識、技能の習得に向けて ヘルスプロモーションの考え方を生かし、健康に関する個人の適切な意思決定や行動選択および健康的な社会環境づくりなどの重要性について理解を深めるとともに、生涯の各段階における健康課題への対応と保健・医療制度や地域の保健・医療機関の適切な活用および社会生活における健康の保持増進について理解できるようにし、心身の健康の保持増進を図るための思考力・判断力などの資質や能力を育成する。 ②思考力、判断力、表現力の育成に向けて 健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を体系的に学習することにより、健康問題を認識し、これを科学的に思考・判断し、適切に対処できるようにすることをねらいとする。そして、ホームルーム活動や学校行事などの特別活動および総合的な探究の時間などにおいて「保健」で身に付けた知識および資質や能力を生かして課題解決などに取り組むことができるようにする。 ③学びに向かう力の涵養に向けて 健康に関する興味・関心や課題解決への意欲を高めるとともに、知識を活用する学習活動を重視して、思考力・判断力等を育成する。

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めているとともに、技能を身に付けている。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断しているとともに、目的や状況に応じて他者に伝えている。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営むための学習に主体的に取り組もうとしている。

5 評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・課題や電子レポート等の提出物の内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・定期考査の分析 ・ペアワークやグループワークでの発言や取組の観察 ・課題や電子レポート等の提出物の内容の確認 などから、総合的に評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・ペアワークやグループワークでの発言や取組（他者や仲間への関わり方等）の観察 ・課題や電子レポート等の提出物の内容の確認 などから、総合的に評価します。
	内容のまとまりごとに、「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。内容のまとまりごとの評価規準は授業で説明します。		

6 学習計画

月	単元名	時数	領域	教材名	学習活動(指導内容)	評価方法
4	日本における健康課題の変遷	1	現代社会と健康	教科書 副教材	・健康水準や疾病構造の変化から、日本の健康課題を理解する。 ・健康水準や疾病構造の変化には社会の状況が関わっていることを理解する。	課題 電子レポート 発言や取組の観察
	健康の考え方と成り立ち	2			・健康の考え方がどのような変化してきたのか理解する。 ・健康の成立には様々な要因が関わっていることを理解する。	
5	ヘルスプロモーションと健康に関わる環境づくり	1			・ヘルスプロモーションの考え方に基づく環境づくりの重要性を理解する。 ・健康を保持・増進するための環境について理解する。	
	健康に関する意思決定・行動選択	1			・健康を保持・増進するには適切な意思決定・行動選択が重要であることを理解する。 ・意思決定・行動選択は様々な要因により影響を受けることを理解する。	
6	現代における感染症の問題	2			・感染症の発生や流行には自然や社会の環境が影響することについて理解する。 ・新興感染症や再興感染症の発生や流行の現状とその理由について理解する。	

学番 3 5 新潟県立長岡向陵高等学校

	感染症の予防	1			・感染症予防の3原則について理解する。 ・感染症を予防するために必要な社会および個人の取り組みについて理解する。	
7	性感染症・エイズとその予防	2			・性感染症・エイズの現状と今後の課題について理解する。 ・性感染症・エイズの予防に必要な個人および社会の取り組みについて理解する。	
	考查	1				筆記テスト
	生活習慣病の予防と回復	1	現代社会と健康	教科書 副教材	・生活習慣病のリスクを軽減し予防するために必要な個人の取り組みについて理解する。 ・生活習慣病の予防や回復のために必要な社会の取り組みについて理解する。	課題 電子レポート 発言や取組の観察
	身体活動・運動と健康	1			・身体活動・運動と健康の関係について理解する。 ・身体活動・運動の継続的な実践に必要な個人と社会の取り組みについて理解する。	
8	食事と健康	1			・食事と健康の関係について理解する。 ・健康的な食生活の実践に必要な個人および社会の取り組みについて理解する。	
9	休養・睡眠と健康	1			・休養・睡眠と健康の関係について理解する。 ・適切な休養・睡眠の確保に必要な個人および社会の取り組みについて理解する。	
10	がんの予防と回復	1			・がんには様々な種類があることやがんの発生要因について理解する。 ・がんの予防や回復のために必要な個人および社会の取り組みについて理解する。	
11	喫煙と健康	1			・喫煙による健康への影響について理解する。 ・喫煙による健康被害の防止に必要な個人および社会環境への対策について理解する。	
	飲酒と健康	1			・飲酒による健康への影響について理解する。 ・飲酒による健康被害の防止に必要な個人および社会環境への対策について理解する。	
	薬物乱用と健康	1			・薬物乱用による健康および社会への影響について理解する。 ・薬物乱用の防止に必要な個人および社会環境への対策について理解する。	
	考查	1				筆記テスト

12	精神疾患の特徴	2	現代社会と健康	教科書 副教材	- 代表的な精神疾患の特徴や症状について理解する。 - 精神疾患の発症、回復のポイントを理解する。	課題 電子レポート 発言や取組の 観察
	精神疾患への対応	2			- 精神疾患の予防や早期発見、治療や支援など適切な対応について理解する。 - 心の健康社会の実現を目指した取り組みの重要性について理解する。	
1	事故の現状と発生要因	2	安全な社会生活		- 様々な場面で起こる事故とその被害の実態について理解する。 - 事故の発生には人的要因と環境要因が関連していることを理解する。	
	交通事故防止の取り組み	1			- 交通事故防止には個人の取り組みと交通環境の整備が必要であることを理解する。 - 交通事故には補償など法的責任が生じることを理解する。	
	安全な社会の形成	1			- 安全な社会をつくるために必要な個人の取り組みを理解する。 - すべての人たちの安全を確保するために必要な環境の整備について理解する。	
2 3	応急手当の意義と救急医療体制	1			- 応急手当の意義と、その手順や方法を身につける必要性について理解する。 - 救急医療体制の仕組みと社会的整備の必要性、適切な利用方法について理解する。	
	心肺蘇生法	1			- 心肺蘇生法の意義や方法、手順について理解する。 - 心肺蘇生法ができるようにする。	
	日常的な応急手当	1			- 日常生活で起こるけがの基本的な応急手当の方法を理解し、できるようにする。 - 熱中症の予防および基本的な応急手当の方法を理解し、できるようにする。	
	考查	1				筆記テスト

計 32 時間 (55 分授業)

7 課題・提出物等

- ・単元に応じた課題を出す。
- ・学期ごとに電子レポートを課す。

8 担当者からの一言

人の一生のなかで高校生の時期は、保健体育の観点からみても大変重要な意味を持っています。体の大きさは成人に近づいていきますが、体力や心の発達という点からは、成人になるまでさらなる充実が期待されるからです。そのような時期にあって、自らの健康はもちろんのこと、これからの社会を担う一員として、健康やスポーツを社会のなかで考えていける力を身に付けることが求められています。健康は生涯を通じて重要な土台となるものです。それが将来にわたって私たちの明るく健康な生活を生み出し、それを維持していく上で欠かせないということを感じ、学習に取り組みましょう。

(担当：稲泉誠治)